

在〈技能实习Life〉这个新栏目中，会告知和诸位一样生活在异国他乡・日本，一边工作一边每天奋斗着的技能实习生的情况。

日语作文竞赛 过去名作公开！

本栏目的第一期，介绍现在正在进行第23届作品征集的「外国人技能实习生・研修生日语作文竞赛」的过去的作品。作文当然是用日语书写的，将技能实习生所写的日语原文刊登出来（注音由编辑部完成），并附上译文后公开，这尚属首次。如果觉得阅读日语困难也可以只看母语，希望大家务必阅览。

[2010年最优秀奖]

【人生如茶】张 朋朋

茶好像是从中国传入日本的，但我最喜欢上喝茶却是来到日本之后的事。

在日本，吃饭的时候习惯喝茶。小啜一口，喝得津津有味。那样子看起来非常享受，似乎陶醉在其中。入乡随俗，在我们实习生宿舍的餐桌上也不自觉摆上了茶。但是我总觉得这仅仅是在模仿日本人的习惯而喝茶，并非真正喜欢上喝茶。

来日本一年，工作上的辛苦，语言上的障碍，思乡之情都让我感到痛苦。一次，我无论如何也想要辞职，就告诉了日本上司。

那个时候，上司给我倒上茶后这么说道：“实际上人生就如同这茶一样。如果将每天的生活比作热水，我们就像在这之中的茶叶。认真观察想想茶为什么会变得好喝。想明白了就能从如今的烦恼中走出来”。

我凝视着茶想着他说的话。茶刚沏的时候，茶叶在热水中上下飞舞。不停晃动停不下来。但是充分吸收了水分后就会慢慢沉淀下来，飘出香味。现在的我不就和这飞舞的茶叶一样吗。因为一时的辛苦和寂寞就动摇了。

静下心来认真思考，我发现在这一年里也收获了许多。公

この新コーナー〈技能実習Life〉では、皆さんと同じように異国の地・日本で仕事をしながら毎日を頑張って過ごしている技能実習生の様子をお知らせしていきます。

日本語作文コンクール 過去の名作公開！

コーナーの初回は、現在第23回の作品を募集中の「外国人技能実習生・研修生日本語作文コンクール」の過去の作品のご紹介です。作文はもちろん日本語で書かれていて、技能実習生が書いた通りの日本語で掲載し（振り仮名は編集部）、対訳をつけて公開するのはこれが初めてです。日本語を読むのが難しければ母国語だけでもいいので、是非読んでみてください。

[2010年最優秀賞]

「人生はお茶みたいだ」张 朋朋

お茶は中国から日本に伝来したようですが私がお茶を飲むのが好きになったのは日本に来てからのことです。

日本では食事をする時、習慣的にお茶を飲みます。一口啜っておいしそうに飲みます。その様子は楽しそうだったり陶醉しているようにも見えます。郷に入れば郷に従えて私達実習生の寮の食卓にもいつしかお茶が用意されるようになりました。

でも私は何となく日本の習慣を真似をして飲んでいただけで本当にお茶を飲むのが好きになったわけではありませんでした。

来日して1年間、仕事上の苦勞、言葉の障害、望郷の思いが私を苦しめました。一度、どうしても辞めたくなり、日本の上司に話しました。

その時、上司は私にお茶をついでこう言いました。「実は人生はこのお茶と同じだよ。毎日の生活をお湯にみたら、私達はその中に入っているお茶の葉みたいなものだよ。じつとよく見てどうしてお茶がおいしくなるのか考えてごらん。そうすれば今の悩みから出てこれると思うよ」

私はお茶を見つめて彼の言ったことを考えてみました。お

司先进的机器已经习惯，通过日常工作也渐渐理解了『5S』理念。还懂得了『报・连・相（报告・联络・相谈）』这一思维方式。日语虽然还没有想象的那么熟练，但也能和公司的同事友好地交流。“是啊，这一点一滴不也是我的财产吗。在剩下的时间里，好好利用这个良好的环境，掌握更多的日语和先进技术吧”，我的想法改变了。

双手捧着茶缓缓小啜一口，最初的苦味就如同痛苦、失败、不得志的味道，但细细品味又能觉出淡淡的些微甘甜。我想这就像是幸福、成功、希望的味道。虽然现在浮浮沉沉，但正因为拼命努力才能成为飘香的茶。

就这样，我喜欢上了每天喝茶。并且尤其爱上了观察茶叶上下飞舞的样子。就好像看见了每天的自己一样。

我觉得日本上司为我沏了一壶人生的茶。托他的福去年12月我通过了日语能力考试1级。谢谢。离回国差不多还有半年，我要拼命努力到最后。

茶を入れ始めると、お茶の葉はお湯の中でくるくると舞います。揺れてなかなか安定しません。しかし、水分を十分吸ってからゆっくりと沈殿してよい薫りを漂わせます。今の私はこの舞っているお茶の葉と同じじゃないかと思いました。一時の苦労と寂しさで動揺したようです。

心を静めてよく考えると、この1年で収穫したのも多くあることに気が付きました。会社の先進機械にも慣れましたし、『5S』の理念も日常の仕事を通じて段々理解できてきました。『報・連・相』の考え方もよく分かるようになりました。日本語もまだ思うように習熟していませんが、会社の同僚とも仲良く交流できるようになりました。「そうだ。この一つ一つのことが私の財産ではないか、これから残りの期間、このいい環境を使ってもっと日本語と先進技術を身につけよう」と思い直しました。

両手でお茶を持ってゆっくり一口啜って初めは苦くてまるで苦痛、失敗、不遇の味なのですが、じっくり味わううちに淡く微かな甘味が出てきます。それは幸福、成功、希望の味のようには思います。今をくるくる舞いながらも一生懸命頑張ってこそいい薫りのするお茶になるのだと思います。

こうして、私は毎日、お茶を飲むのが好きになりました。そしてお茶の葉が舞う姿を見るのが特に好きになりました。まるで毎日の自分の姿を見ているようです。

日本の上司は私に人生のお茶を注いでくれたと思います。おかげで昨年12月日本語能力試験1級に合格しました。ありがとうございます。帰国まであと半年ほどになりましたが、最後まで一生懸命頑張りたいと思います。